

2月24日(水曜日)

ドル/円

出口へ踏み込む発言はあるか

23日(火)の主な推移

ダウ平均株価

10282.41ドル
(-100.97ドル)

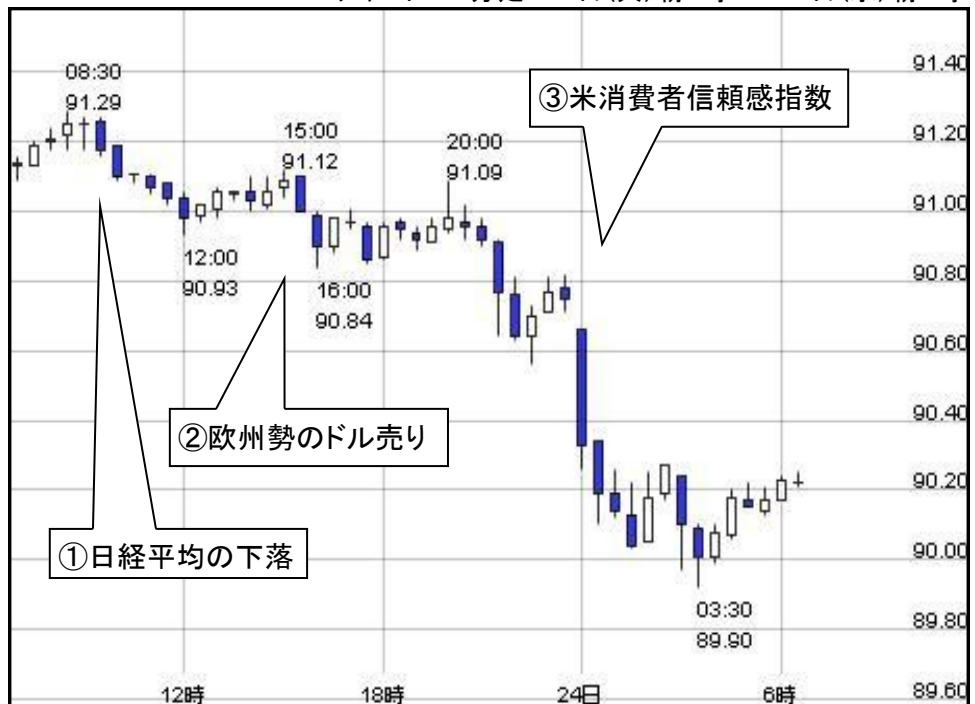
米長期金利
(10年債利回り)

3.6890%
(-0.1084%)

NY原油先物

78.86ル
(-1.45ドル)

チャート: 30分足 23日(火)朝7時 ~ 24日(水)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所: 外為どっとコム

- ① 日経平均株価や中国株の下落に伴い、リスク回避目的の円買い戻しが先行した。ただ、株価が午後に入って反発すると、ドル/円は91.00円付近で底堅く推移した。
- ② 欧州勢がドル売りで参入し始めると、ドル/円はややドル安・円高となった。16時過ぎにオーストラリア準備銀行(RBA)のバッテリーノ副総裁が自国通貨高がインフレ抑制に役立ったという主旨の発言をしたことでドルや円に対して豪ドルが上昇したものの、ドル/円相場に大きな影響はなかった。
- ③ 24時に発表された米2月消費者信頼感指数が46.0と、市場予想の55.0を大幅に下回ったことから、ダウ平均株価が急落し、米長期金利も急低下した。これを受けてドル/円はドル売り・円買いが進み、日本時間24日4時前には89.90円の安値をつけた。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 89.60-90.60円

本日一番の市場の関心は米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の議会証言だろう。10日に予定されていた議会証言は雪で延期になったものの、議会証言の草稿はすでに同日に発表されている。ただ、その後にFRBは公定歩合の引き上げを行っており、今回の証言内容に草稿からの変化がみられるかどうか注目が集まる。出口戦略に向けて一步踏み出すような(あるいはそう受け止められるような)発言があれば、為替市場はドル全面高になるものと考えられる。ただ、一方で何ら踏み込んだ発言がなかった場合は、事前の期待が大きかっただけに、ドル売りが強まる公算が大きい。

ドル/円の日足チャートを見ると、昨日23日は節目の90.00円前後で買い支えられた格好になっている。本日はこの水準を維持できるかが焦点となろう。終値ベースで90.00円を下回ってしまうと、2月4日安値の88.53円まで円高・ドル安トレンドを継続する可能性が高まる。

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
2/24(水)	24:00	○	(米) 1月新築住宅販売件数 [年率換算]	34.2万件	35.3万件
	24:00	○	(米) 1月新築住宅販売件数 [前月比]	-7.6%	+3.2%
	24:00	◎	(米) バーナンキFRB議長の議会証言	—	—
	27:00	○	(米) 財務相5年債入札(420億ドル)	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com